

技術資料 #59

トラブルシューティング

ストーブが夜通し燃えない場合

まず、ニーズを満たす燃焼を得るために、実験してみてください。

火が勢いよく燃えるほど、燃焼時間は短くなるでしょう。

現在のハースストーン製品はすべて、空気量の調節操作を行うと、燃焼の仕方が非常に変化することを知っていただけたと思います。

空気量の操作でニーズにあった方法やセッティングを見つけてください。それ以外に考えられることを下記に記します。

原因	解決方法
ドラフトが強すぎる 注 1	煙突が高さ 9m を超過している場合、煙突を短くしてください。 ストーブコネクタにダンパーを取り付けてください。
薪の長さが短かすぎる	ストーブの最大薪長さにカットした薪を使用してみてください。 木の直径が太い部分を割ったものを使用してみてください。
薪の種類	軟らかい薪は燃えが早く、硬い薪に比べると、熾きの量が少ないといえます。よく乾燥させた硬い薪を使ってください。
操作方法	すべてのドア、及びグレートを開けたまま使用しないでください。 燃焼が進んだら、取り入れる空気量を減らしてください。 下記、操作 #1、操作 #2 どちらかを試してみてください。

操作 #1

寝る約 30 分前に薪を補充してください。完全に一次空気コントロールを開き、熾きの層の上に大きな薪を、炉内を満たす量くべます。ちょうど寝る前に、薪が最高値で燃えるような状態になるでしょう。これで二次燃焼システムが適切に働きますので、寝る前に一次空気コントロールを閉じ(あるいはほとんど閉じた状態)ま

操作 #2

寝る約 1 時間前に薪を足します。一次空気コントロールを開き、熾きの層を作成する為です。寝る約 30 分前から一次空気コントロールを閉じ(あるいはほとんど閉じた状態)、ちょうど寝る前に大きな薪で炉内を満たしてください。翌朝、火を起こすための熾きが、炉内に残っているか、灰を少し動かすと熾きが現れれば、少量の熾きでも楽に着火することができます。

注 1: 技術資料 #21 を合わせてお読みください。